

**喜多文字 囲碁棋士。能楽師喜多六平太の妻。結婚で中断するも、再開後女性初の五段になった。**

きたふみこ

初の民間工場1875 = 東京下谷で、新潟県佐渡郡真野町の医師司馬凌海(盈之)の二女に生まれる。

沖縄県編入・1879 = 4歳： **父が死去したため、方円社の女流棋士林佐野の養女となり、**

**明治14年政変**1881 = 6歳： **養母佐野から囲碁を学び、佐野の兄中川千治に勧められ**

秩父事件・・・1884 = **9歳：**

内閣発足・・・1885 = 10歳：この頃から、方円社に通う。修行のためと、丸坊主・男児服で通し、

**帝国憲法発布**1889 = 14歳：

大津事件・・・1891 = 16歳： **初段となり、**

郡司千島探検1893 = **18歳：**

**日清戦争始**・1894 = 19歳：

**日清戦争終**・1895 = 20歳： **三段に進んだところで、能楽喜多流家元喜多六平太と結婚、**  
**以後、主婦に専念し、13年間碁石を持つことがなかった。**

教科書疑獄・1902 = **27歳：**

**日露戦争終**・1905 = 30歳：

**韓国反日暴動**1907 = 32歳： **六平太の勧めで、棋界に復帰し、頭山満の支援で、田村保寿(のちの本因坊秀哉)と52番、三井家の支援で、中川亀三郎と20番勝負。**

大逆事件判決1911 = **36歳：** \*{万朝報}の坊社対抗戦、{時事新報}の方円社勝抜き戦で、それぞれ5人抜き果たし、女流棋士初の四段。

**明治天皇没**・1912 = 37歳：

大暴落・・・1920 = **45歳：**

**原敬首相暗殺**1921 = 46歳： \*女流初の五段となる。

**関東大震災**・1923 = 48歳：この年、**本因坊家と方円社が合同して中央棋院が設立されるも分裂した際、中央棋院側に残って、**

**護憲三派圧勝**1924 = 49歳：この年の\***日本棋院の設立の功労者となり、引退。以後、後進女流棋士の育成に努める。**

共産党事件・1928 = 53歳：この年来日した、呉清源を熱心にサポートし、

**世界恐慌**・・・1929 = **54歳：**

**満州事変**・・・1931 = 56歳：

**日中戦争始**・1937 = 62歳：

総動員+健保 1938 = **63歳：**

大政翼賛会・1940 = 65歳：呉清源が富士見高原診療所に入った際には、しばしば見舞いに行き、

**日米開戦**・・・1941 = 66歳：

・・・1942 = 67歳：呉清源の結婚に際しては、夫とともに媒酌人を務める。

**敗戦**・・・1945 = 70歳：翌年にかけて、岩手県水沢に疎開した時は、地元のアマチュアを指導。

新憲法施行・1947 = **72歳：**

**朝鮮戦争始**・1950 = 75歳： **没した。**

七段を追贈され、のちに名誉八段追贈。松の門三草子(小川みさ)について和歌を学び、瓢柳斎閑秀の門松の門に入って石州流花道を修め、芳枝女と号した。